

“ばね”を作り続けて50年余りの実績 新たな“ばね”で一般ユーザーの開拓を狙う

事業内容

極小ばねなど複雑な加工に対応する 特殊ばねの専門メーカー

1961年(昭和36年)の創業以来、生活のいたる所で目にする「飛ぶ・跳る・縮む」の原理を高度なエネルギーコントロール技術として、カメラ、マシン、家電製品、複写機、OA機器に関連した各種精密極小ばねの専門メーカー。大阪府内の大手家電メーカーの供給業者として発展してきたこともあり、高い技術力を有する。多品種少量生産の需要に即応するために金型・治工具の製作・高性能マシンを自社開発し、コンピューターと連動させた多工程自動化生産システムを採用し、「理研のばね」として海外からも信頼と実績を得てきた。

社会ニーズの多様化に伴い、過年度においては家電メーカー向けのばね製品の納入が多かったが、近年は自動車の車載用のばね部品の納入が増加しつつあり、全体の売上高の20%を占めるようになった。さらに、他社では作れない、小さく特殊なばねに関しては取引も多く、すべてオーダーメイドで製造できる点は同社の強みである。設備面では、「多工程自動化生産システム」を自社開発し、検査や梱包までを自社でできる体制を整えるなど、充実している。

補助事業

取付け簡単・緩まない 農業・園芸用の支柱同士の締結クリップを開発

これまでのばね製造ではメーカーに部品を供給する立場だったが、さらなる発展を目指すために新たな商材を打ち出していくという機運が高まり、それが今回の新製品の開発につながった。また、同社が位置する大阪府四條畷市上田原の周辺を見渡せば田畑が広がっている。農業に自社のばね技術を活かせないかと考えたことも製品開発のきっかけとなった。

一般的な農作業や家庭菜園では、支柱同士を組み付ける際に紐で縛る。しかし、紐の結び方が難しく、緩んだり解けたりする。それを解消する組付けのクリップは既に販売されているが、取付け時に強い力が指先にかかるなど、特に女性や高齢者には負担になっていた。そこで、同社が長年ばねの分野で培った技術を活かし、高齢者でも簡単に取付けができ、なおかつ緩まない支柱用クリップの開発が進められた。「簡単・緩まない」が製品開発時のコンセプトであり、品質・技術リーダーの中西尚之氏を中心にプロジェクトチームが発足し、全社員で製品開発が進められた。



成果

特許庁の意匠登録2件を申請 販売戦略は模索

同社が保有するばね製造用の機械は小型が多いため、今回の補助金は、大ぶりのばねが製造できるNCスプリングフォーマーと呼ばれる機械の導入に利用された。

軽く、しかもしっかりした「支柱クリップ」の開発は、製品のイメージがおおまかに決まっていたことや、これまでのばね製造で培った技術を応用させることにより、製品化までの流れは比較的スムーズにいったという。結果、サビにも強いステンレス製の「簡単・緩まない」支柱クリップが2点完成した。既に特許庁の意匠登録には申請済みであり、今後は販売に力を入れていく。

現在は、テストマーケティング的に社員の知り合いなどに実際に利用してもらっている。ユーザーの声としては、当初想定していなかった意見や感想もあり、例えば今まで届かなかった場所まで支柱クリップを使うことで固定できるようになったなど、評価も上々。今後は、近隣の貸農園を展開しているNPO法人などに利用してもらうことにより、新たなユーザーの声を収集していく予定だ。

中期的な販売展開としては、ホームセンターなどの量販店でまとまったロットで販売していくことを検討している。量販店に販路を持つ商社筋やホームセンターなどに直接働きかけることにより、来年の夏野菜作りに使用してもらえる販売戦略を構想中である。



今後の展開

支柱クリップの開発を皮切りに ばねの技術を活かした新たな展開を

支柱クリップは、ホームページに商品を掲載し、販売を開始して1ヵ月余りであり、今後の販売動向を見守りつつ、必要に応じて製品の改良を加えていく考えである。支柱クリップの利用例などを動画で配信するなどの新しい取り組みも構想しており、一般ユーザーに向けてクリップの利点を分かりやすく説明し、PRしていく。

今回の支柱クリップの開発を皮切りとして、同社ではばねの技術を活かした製品を今後も市場に送り込んでいく事業展開に意欲を見せる。過去にもばね製造技術を活かして「獣から樹木を守る」ばねを開発した実績があり、特に一般ユーザーが身の回りで使用する製品を開発し、メーカーとしてBtoCのビジネス展開を行っていく。

既存事業を大切にしつつ、新たな製品開発を社員一丸となって取り組んでいる。さまざまなアイデアが社内飛び交っている、そんな同社の次なる新製品のリリースが待ち遠しい。

支柱クリップをきっかけに 新たなビジネス展開を

取締役総務部長 丸石 宗治
品質・技術リーダー 中西 尚之

四條畷市にある本社の周辺には田園風景が広がっています。本文にもありますが、「農業に自社のバネ技術を活かせないか」と考えたことが、今回の「支柱クリップ」開発につながりました。そして、クリップの使い方を説明したビデオやカタログ、パッケージまで全部を社員の手で作し、慣れないながらも楽しい制作になりました。

従来のBtoBビジネスだけでなく、支柱クリップの開発をきっかけとして、一般ユーザーに向けた商品を開発し、BtoCのビジネス展開をしていきたいと考えています。

理研条工業 株式会社

代表取締役社長 森田 雅則
四條畷市上田原16
TEL : 0743-78-1155
〈資本金〉29,525千円
〈従業員〉45人

<http://www.riken-spring.com/>

